

感染症部会における主なご意見（未定稿）

感染症部会（R8.9.30）における主なご意見（未定稿）

※ 主な意見を事務局で整理したもの。委員の発言趣旨を踏まえて文言を整理している。
委員確認前のため、今後修正があり得る。

（有事に備えた平時からの支援の制度化・持続可能な支援の仕組み）

- ・ 感染症有事に平時から備える考え方は重要であり、複数年度の予算や法制化を含め、長期を見据えた取組が必要
- ・ 感染症対策は長期計画のもと定期的な評価と柔軟な見直しを行う仕組みによる必要がある
- ・ 市場原理のみに委ねると企業撤退や研究基盤喪失のおそれがあり、国が責任を持って維持する考え方が重要
- ・ 買上げ、備蓄等のプル型インセンティブの充実は、有効かつサステナブルな仕組みが必要

（研究開発基盤の整備・強化）

- ・ ARISE、i-CROWN、J-GRIDなどの既存の国内外の臨床試験ネットワークを連携させ、国際共同治験を含む治験強化が必要
- ・ 上記ネットワークを活用して、迅速なデータ収集・情報共有、リポジトリの整備が必要
- ・ 感染症危機時の迅速なMCM開発のため、病原体搬送や遺伝子組換え技術の利用等に関する課題、FIH（First in Human）施設の拡充の観点から検討が必要
- ・ 感染症危機時に迅速な有効性評価を可能とする観点から、モックアップワクチンの開発・実用化を推進すべき
- ・ 企業治験に偏ることなく、医師主導治験を円滑に実施できる環境整備について検討が必要
- ・ 国全体の感染症研究としては、重点感染症以外も含めた幅広い感染症を対象として研究基盤の維持が重要

（研究成果の実用化・薬事承認制度）

- ・ ユニバーサルワクチンなど新たなモダリティに対応した研究開発・実用化の推進や薬事承認の在り方の検討が重要
- ・ 感染症危機時の迅速な実用化に向け、アニマルルール等を活用した評価・承認の仕組みについての検討

感染症部会（R8.9.30）における主なご意見（未定稿）

※ 主な意見を事務局で整理したもの。委員の発言趣旨を踏まえて文言を整理している。
委員確認前のため、今後修正があり得る。

（官民連携・関係機関の連携強化）

- ・ 政府行動計画など他の計画との連携も重要
- ・ アカデミアと企業の連携、スタートアップ・ベンチャー育成が重要
- ・ 研究開発を円滑に進めるため、省庁間の連携のもと、AMED、SCARDA、PMDA等と連携したワンストップ相談体制を整備することが重要
- ・ 有事を想定した訓練、シミュレーションを平時から実施し、実効的な連携体制の構築が重要

（医療提供・供給体制の整備）

- ・ 国内生産基盤を確保しつつ、パンデミックを想定し、幅広い供給体制の構築が重要
- ・ 試薬やPPEの国内確保、治療薬・検査薬等の医療機関への分配体制の確認が重要

（人材育成）

- ・ 創薬シーズの実用化には創薬化学分野等の専門家が必須であり、アカデミア・企業双方における人材確保が重要
- ・ 感染症分野におけるポスドク等の人材育成支援、専門人材を長期的に育成する体制が重要

（リスクコミュニケーション・国民理解）

- ・ ワクチン、治療薬等の有効性・安全性に関する平時のリスクコミュニケーション、有事のクライシスコミュニケーションが重要
- ・ 科学的エビデンスに基づく情報発信が重要
- ・ 国民に分かりやすいメッセージの発信が重要